

平成27年度 第1回 教育課程編成委員会 報告書

1. 日時 : 平成27年9月17日(木) 15時00分～16時00分
2. 場所 : 日本福祉教育専門学校 高田校舎221教室
3. 出席者 : 委員長 山田 幸一 (日本福祉教育専門学校 副校長)
委員 金川 宗正 (社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 施設長)
委員 肥後 義道 (株式会社東日本福祉経営サービス 主任コンシェルジュ)
委員 松山 慎司 (社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員)
委員 小内 仁子 (東京都言語聴覚士会 学術局部員)
委員 渡辺 祐介 (公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会)
事務局 小杉 泰輔 (事務部長)
事務局 川口 朝子 (教務課)
事務局 積田 修真 (教務課)
書面参加: 委員 渡邊 大樹 (社会医療法人社団正志会南町田病院 専門職員)

4. 議事

1) 委員再任 (小杉)

2) 新任委員の紹介 (小杉)

- ・渡辺委員から挨拶をいただいた。

3) 学校経営の業績重要指標として、重点課題に対する意見交換

① 中途退学率の削減

全学科長が参加する教育構想会議の資料「C&C指標_中途退学率14」を基に説明を行った。
(山田)

- ・進路変更を理由に退学した学生の進路先は把握しているか。(金川) 明確な進路先を決めている一方で、「退学後に進路先を決めたい。」という学生もいる。進路先をすべて把握しているわけではない。(山田) 具体的にはどのような業界に進んでいるのか。(金川) 福祉とはまったく関係がない業界に進んでいる。(川口)
- ・精神的な病気を理由に退学している学生は入学前から疾病を抱えているのか。(肥後) 入学前から疾病を抱えている場合もある。(山田) いつごろからこのようなケースで退学する学生が増えてきたのか。(肥後) 2・3年前から増えてきた。疾病を抱えた学生全員が退学に結びついているわけではなく、卒業した学生もいる。精神的な病気については、プライバシーの問題もあるため、個人面談や専任講師が専門職を活かしたカウンセラーが対応している。(山田) 精神疾患の学生は学校が専門職や医療機関に結びつけたほうがよい。学生本人の人生を長い目で見たとき、まずは治療に専念し、学業に復帰して欲しい。(小内)
- ・どの時期に退学を申し出る傾向があるか。(松山) ゴールデンウィーク明けや夏季休暇明けが多い。ゴールデンウィーク明けから担任との個別面談を実施し、学生が抱え込んでいる悩みや不安を確認している。(山田)
- ・本人は退学を希望しているが、考える時間が必要な場合には休学を勧めることもある。しかし、休学から復学に結びつくケースは少ない。(山田)
- ・介護福祉学科の退学改善策に「介護福祉士として意欲が維持できるようなイベントを企画していく。」とある。どのようなイベントを行っているか。また介護職の大変さ、辛さのイメージが先行している。卒業生や学校が率先して介護職の魅力、楽しさ、モチベーションの向上を発

信して欲しい。(肥後) オープン科目や授業内において各方面で活躍している卒業生をお招きし、実践現場における仕事のやりがいや魅力、大変さを伝えている。(積田) 介護職の給料は低いイメージがあるが、本音の部分ではいかがか。(山田) 単年度の年収だけで比較するのではなく、3～5年後を比較して欲しい。また給与面ばかりではなく、休暇をきちんと取得できているかなども確認して欲しい。(肥後) 一般企業では賞与がカットされていることもあるが、社会福祉法人はきちんと賞与がでている。(金川)

- ・介護福祉学科は学生募集が苦戦している。仕事の魅力、給与、楽しさをアピールしていく必要がある。(山田) 介護職の処遇や魅力を発信していくことも重要。さらに実際に働いている職員の声、介護を目指す人たちに届けていきたい。(渡辺) 介護福祉学科は入学者が少なく、さらに入学後に一定数の退学者がでるため、在学者数がさらに少なくなっている。(山田) 介護福祉士を取得したあとに理学療法士や作業療法士を目指す卒業生もいる。グループ校の紹介をしてもよいのでは。(松山)
- ・言語聴覚療法学科の退学理由は「教育内容の理解不足」と「職業内容の理解不足」が挙げられる。働いてから実感しているのが、目に見えない障害が多いことであり、言語聴覚士だけでは解決できないケースがある。他職種連携が欠かせず、在学中から他職種の理解が必要か。(小内) 2年次の長期実習が難しいのでは。(山田) 他学科も難しいと思う。また、実習の評価が不可の場合や勉強はできるがコミュニケーションができないと、現場に出てから通用しない可能性がある。(小内) 学力低下はどうか?(肥後) 年々低くなっている。(川口) 国家試験の合格率はどうか。(肥後) 毎年90%以上の合格率。(川口)
- ・入学者の年齢層はどうなっているか。(松山) 学科によって年齢層が違う。介護福祉学科はハローワーク経由で入学する学生がいる。また定年後に本校に入学し福祉の道を志す学生もいる。年齢が高い学生が10代、20代の学生を引っ張り良い関係を築くことがある。(山田)

5. 総括 (山田)

本年度第一回目の教育課程編成委員会が開催されました。各委員からは、現場実践の上で問題になっている事象や今後の学校への前向きなご提言等をいただき、感謝申し上げます。今回の重点課題は、中途退学率の削減に関するもので、相互に意見交換ができました。中途退学理由は各学科によっても異なり、自分自身の問題をはじめとして、家族関係、社会環境上の問題、対人関係、疾病関係等々の諸問題が重なり、学生生活を継続していくことが不可能になる現象と捉えることができます。従って、その対応策や防止策も可能性と限界性の狭間に立たされることになり、困難を極めることが多々あります。今回、各委員からのご提言の内容を踏まえ、少しでも中途退学防止に資することができるよう、検討と実践を繰り返していきたいと思っております。

以上